

メルカトルの級数



山脇の超数学講座 No. 49



ここで、積分区間 $0 \leq x \leq 1$ において、まず $1+x \geq 1$ だから、 $0 < \frac{1}{1+x} \leq 1$

辺々に $x^n \geq 0$ をかけて、 $0 \leq \frac{x^n}{1+x} \leq x^n$ (等号は $x=0$ のときのみ成立) であるので、

$$0 < \int_0^1 \frac{x^n}{1+x} dx < \int_0^1 x^n dx = \left[\frac{x^{n+1}}{n+1} \right]_0^1 = \frac{1}{n+1}, \quad \text{さらに、} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n+1} = 0 \quad \text{だから、}$$

「はさみうちの原理」より、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \int_0^1 \frac{x^n}{1+x} dx = 0$ が成り立つ。ゆえに、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} (\textcircled{2} \text{の右辺}) = \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ \log 2 + (-1)^{n+1} \int_0^1 \frac{x^n}{1+x} dx \right\} = \log 2 + (-1)^{n+1} \times 0 = \log 2 \quad \text{となり、}$$

$$\sum_{n=1}^{\infty} (-1)^{n-1} \frac{1}{n} = \log 2, \quad \text{すなわち、} (*) \text{ が証明されたのである。} \quad \text{【終】}$$

$1, -\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, -\frac{1}{4}, \frac{1}{5}, \dots$ という有理数を無限に加えていくと、 $\log 2 = 0.69314718\dots$

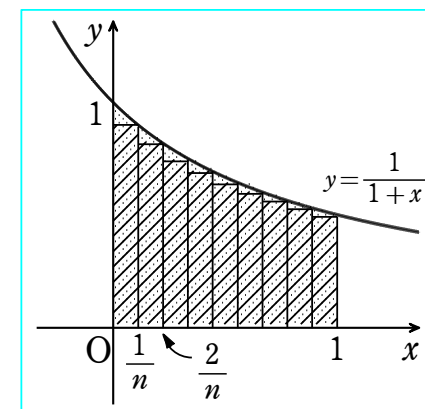
という無理数に収束する。この驚きの結果が、ライプニッツ(1646~1716)に先んじて、ドイツ出身でイギリスに渡って学んでいた数学者ニコラス・メルカトルによって発表された。 $\log 2$ は特別な数であるという印象を持つ。他にも $\log 2$ に収束する級数がある。

【例題】 極限值 $S = \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{1}{n+1} + \frac{1}{n+2} + \frac{1}{n+3} + \dots + \frac{1}{2n} \right)$ を求めよ。

$$\begin{aligned} \text{【解答】} \quad S &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \left(\frac{1}{1+\frac{1}{n}} + \frac{1}{1+\frac{2}{n}} + \frac{1}{1+\frac{3}{n}} + \dots + \frac{1}{1+\frac{n}{n}} \right) \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \left(\frac{1}{1+\frac{k}{n}} \right) \end{aligned}$$

よって、 $f(x) = \frac{1}{1+x}$ とすると

$$\begin{aligned} S &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n f\left(\frac{k}{n}\right) = \int_0^1 f(x) dx \\ &= \int_0^1 \frac{dx}{1+x} = \left[\log|1+x| \right]_0^1 \\ &= \log 2 \quad \text{【答】} \quad \text{【「区分求積法」を用いた】} \end{aligned}$$



【コメント】 実は、メルカトル級数は、式変形によって**【例題】**の級数と等しくなるのである。

つまり、 $\sum_{k=1}^{2n} \frac{(-1)^{k-1}}{k} = \sum_{k=1}^n \frac{1}{n+k}$, 解説は次の機会とするが、なぜこうなるのか考えてみよう。

$$1 - \frac{1}{2} + \frac{1}{3} - \frac{1}{4} + \frac{1}{5} - \frac{1}{6} + \dots = \log 2 \quad \dots (*)$$

今回は、1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, ……という自然数の数列に、初項から順に(-1)をかけていったものの逆数をとって、無限に加えていくと $\log 2$ に近づいていくという「メルカトルの級数」を証明します。

$$1, \overset{\curvearrowright}{\underset{\times(-1)}{2}}, \overset{\curvearrowright}{\underset{\times(-1)}{3}}, \overset{\curvearrowright}{\underset{\times(-1)}{4}}, \overset{\curvearrowright}{\underset{\times(-1)}{5}}, \overset{\curvearrowright}{\underset{\times(-1)}{6}} \dots \dots \text{【自然数列に順に}(-1)\text{}をかける】}$$

この数列の第 n 項は $(-1)^{n-1} \frac{1}{n}$ と書けるので、その逆数の無限級数の和に

$$\text{記号} \Sigma \text{を使うと、} (*) \text{ は } \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^{n-1} \frac{1}{n} = \log 2 \quad \text{と書ける。この結果の}$$

$\log 2$ の底は「ネイピア数 e 」($\doteq 2.71828\dots$)であり、 $\log 2$ は「 e を何乗したら2になるか」という数。なお、メルカトルは、「メルカトル図法」で知られる地理学者のゲラルドゥス・メルカトル(1512~1594)ではなく、著書『対数術』で知られる17世紀の数学者ニコラス・メルカトル(1620~1687)である。彼は『対数術』の中でこの級数を紹介した。

【証明】 まず、初項1、公比 $-x$ の等比数列の初項から第 n 項までの和を考える。

$$1 - x + x^2 - x^3 + x^4 - \dots + (-x)^{n-1} = \frac{1 \cdot \{1 - (-x)^n\}}{1 - (-x)} = \frac{1 - (-x)^n}{1+x} \quad \dots \dots \textcircled{1}$$

今、 $\textcircled{1}$ の両辺を $x=0$ から $x=1$ まで積分すると、

$$\int_0^1 \{1 - x + x^2 - x^3 + x^4 - \dots + (-x)^{n-1}\} dx = \int_0^1 \frac{dx}{1+x} - \int_0^1 \frac{(-x)^n}{1+x} dx \quad \dots \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{2} \text{の左辺} = \left[x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3} - \frac{x^4}{4} + \dots + \frac{(-1)^{n-1} x^n}{n} \right]_0^1 = 1 - \frac{1}{2} + \frac{1}{3} - \frac{1}{4} + \dots + \frac{(-1)^{n-1}}{n}$$

$$\textcircled{2} \text{の右辺} = [\log|1+x|]_0^1 - (-1)^n \int_0^1 \frac{x^n}{1+x} dx = \log 2 + (-1)^{n+1} \int_0^1 \frac{x^n}{1+x} dx$$

$\textcircled{2}$ の左辺は、無限級数 $\frac{1}{1} - \frac{1}{2} + \frac{1}{3} - \frac{1}{4} + \frac{1}{5} - \frac{1}{6} + \dots$ の部分和であるから、

$$\sum_{n=1}^{\infty} (-1)^{n-1} \frac{1}{n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ 1 - \frac{1}{2} + \frac{1}{3} - \frac{1}{4} + \dots + (-1)^{n-1} \frac{1}{n} \right\} = \lim_{n \rightarrow \infty} (\textcircled{2} \text{の左辺}) \quad \text{となる。}$$